

令和6年度 第2回伊丹市文化振興ビジョン策定懇話会 議事概要

内 容	令和6年度 第2回伊丹市文化振興ビジョン策定懇話会
開催日時	令和6年7月8日(月) 10:00~12:00
開催場所	伊丹市役所 4階 403(鉛白)
出席委員	中協会長、岩崎委員、上田委員、衣川委員、吉田田委員
会 議 次 第	
1 開会 (1) 開会挨拶 (2) 資料確認 2 議題・意見交換 (1) 伊丹市文化振興ビジョン(案)について (2) その他関連事項 3 閉会	
発 言 要 旨	
【議題(1) 伊丹市文化振興ビジョン(案)について】 中協会長： ・5月25・26日に開催した市民ワークショップと、ビジョン案について前回お示しした素案からの変更点等についてご意見をいただきたい。 衣川委員： ・市民ワークショップに参加して、参加者がそれぞれの立場で思われていること、考えておられることを話してくださる場は非常に貴重。 上田委員： ・2日とも参加した。メンバーが変わっても「相談窓口が欲しい」「つながる場所が欲しい」というのは共通だということがよく分かった。 ・参加者それぞれの発言が既存の価値観によるものであっても、それが未来に向かう言葉に変わっていく。そうやって価値観を一旦外に表すことによって“場”の中でそれが転換してく可能性を感じた。 吉田田委員： ・ビジョン案29頁について、プロセスや相談件数といった定量評価しにくいものを評価するということに踏み込んだということが、ものすごく重要な部分だと思っている。 ・28頁の「ビジョンの指標」を見ても、定量評価しにくい部分を評価するということに踏み込んだというのが見てとれない。 上田委員： ・28頁と29頁を入れ替えてはどうか。第4章の1を「推進に向けた考え方」にして、次に「ビジョンの指標」、その後に「期待される役割」という順番。 衣川委員： ・私もそこがこのビジョンの肝だと思う。他の自治体のビジョンとは違う新たなステージに上がった感じがする。行政計画としてはかなりチャレンジングな部分もあるのではないかな。	

吉田田委員：

- ・28 頁の指標の中にプロセスや過程に絞った指標を入れて、日本中に、こういうことを伊丹はやるんだよということを言いたい。
- ・それで不具合が出てきたり、難しいということが明らかになっていくことも大事だと思う。どうすればいいのかという議論が生まれないと、次に繋がっていかない。

中協会長：

- ・一番シンプルなのは第4章の構成、順番を変更すること。もう一つはビジョンの指標に「相談件数」のような項目を入れたいというご意見。

事務局：

- ・ビジョンの指標や事業価値の定量化について、いたみ文化・スポーツ財団の方々と議論した中では、ビジョン素案で提案している項目を実際にどういった仕組みでできるのか検討事項となった。具体化にあたっては、いつまでにどこまでやるかということが懸念されている。
- ・財団には、ビジョンのスタート後、令和7年度いっぱいかけて、定量化の仕組みに向けてどういった形がいいのかということを1年間試行するような形で実施することを投げかけている。
- ・令和10年度に見直す際、指標の追加について検討していきたい。
- ・第4章の構成を変更することはまったく問題ない。

中協会長：

- ・ビジョンの指標として、「結果」の指標と、連携・派生といった「関係」に対する指標は設定できているが、「過程」の価値については設定できていない。
- ・28 頁の指標の表に1項目追加して、「過程の価値を測る指標」を令和10年度までに決める、アップデートしていくという態度を示しておくといいのではないか。

衣川委員：

- ・指標について見直すのが値だけでなく、そもそもの項目自体もこれからの経過の中で変化してく可能性があるというような“含み”を持たせた方が、我々としてはいい。

岩崎委員：

- ・ビジョン案の内容に関しては、良い意味で整えられており、こうやってまちづくりを推進していきましょう、文化芸術が根幹だよ、というものに仕上がっている。
- ・これを誰が実行していくことになるのか、今後のビジョンの展開のさせ方が気になる。
- ・アートNPOがあると実現しやすいが、伊丹市の文化施設はすべて財団の運営になっている。
- ・財団の若い職員の方々がこのビジョンを「どう受け取ったか」という活発な議論をして、そういう中から新しい事業の形が生まれてこないといけない。職員の意識づけが大事。

上田委員：

- ・些末なことになるが気になる点をいくつか。ビジョン案4頁のイラストは井戸掘りだけだとびっくりされると思うので、他の事例のイラストも入れていただいた方がいい。
- ・10 頁の「また、演劇やダンスは」について、演劇やダンスと名付けられないパフォーマンスもあるので「など」と付け加えていただきたい。
- ・17 頁の「人生に彩りと潤いを」の部分について、文化芸術には芯になる「力」があると思うので、ここには「生きる力」というような意味の文言を入れてほしい。
- ・28 頁の指標の「こども世代」について、小学生は高学年より低学年の方が文化芸術にかかわる活動に参加するチャンスが多いので、小学1年生から調査対象にすればいいと思う。

衣川委員：

- ・懇話会の最初の頃からの懸念事項だが、このビジョンを誰が推進していくのか、どういうふうに進んでいくのか、実際に事業化されたときにどんなものになるのかというようなことへの懸念は、委員の皆さんの中でも高いのではないかと。
- ・ビジョン案 27 頁の「期待される役割」でも地域のコーディネーターとして財団の名前が書かれているが、そういうキーマンにある人が何人かいないと、我々が思い描くような方向にはなかなか行かないのかなと気になるころではある。
- ・職員の方々の意識改革というか意識変容が重要と思う。

岩崎委員：

- ・施設管理を受け持っているということは、日々の業務はそちらに取られてしまう。
- ・財団の職員の中で、いま自由に外部と交流できている職員は、僕の間からはあまりいない。このビジョンを実行できるかどうかはそこにかかっているのではないかと。

中脇会長：

- ・職員の育成には「対話のテーブル」みたいな企画が生まれた方がいいように思う。
- ・ビジョン素案について、第 4 章の構成については順序を入れ替えて、ビジョンの指標には過程の価値について今後検討し、アップデートされていくよう指標の項目としても入れていただけないかという意見をいただいた。
- ・17 頁には、彩りや余暇のようなことではなく「生きる力」というような言葉も入れてほしいという意見をいただいた。
- ・本日いただいた意見をベースにビジョン案を仕上げていただきたい。

以上